

令和４年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ボランティア自主企画事業

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然体験活動の機会が減少している現代に、オリエンテーリングや巨大アートなどの活動を通して自主性や協同性を育み、自然との触れ合いを楽しむことを目指す。

2. 事業の概要

（１）事業名

「あつまれ！きびのもり～からだで表現、みんなで描こう巨大アート～」

（２）期日

令和５年１月１４日（土）～１月１５日（日）１泊２日

（３）参加者

① 募集対象・人数

県内の小学校３・４年生 １６人

② 参加人数

企画ボランティア１６人 小学校３・４年生１６人

（４）企画・運営のポイント

- ① ボランティア・コーディネーター（以下ボラコー）は、自主企画事業の趣旨や企画事業の目的に沿った事業運営ができるように、法人ボランティアとの電話やメール、会議など相談の機会を多く取るようにした。
- ② 法人ボランティアが利用団体として手続きをする経験を積むことができるように、打合せや購入物品の申請などの書類提出や手続きについて指導した。
- ③ 法人ボランティアが計画した活動を実際に体験し、感じたことや改善点を修正できるように、事業当日までに２回の事前研修の日程を確保した。また、事業当日も前泊をして余裕を持って準備できるようにするなど、法人ボランティアが自信をもって事業を運営できるように支援した。
- ④ 参加者に安心・安全に活動してもらえるように、安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボラコーで共有した。
- ⑤ 多くの応募を募るために、地元を対象エリアとする「吉備ケーブルテレビ」に取材をしてもらい、広報に務めた。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

|       | 1月14日(土)       |       | 1月15日(日)     |
|-------|----------------|-------|--------------|
| 10:00 | 開会式            | 6:45  | 起床           |
| 10:30 | 仲間づくりのゲーム      | 7:15  | 準備・清掃        |
| 11:30 | 目標づくり          | 8:00  | 朝食           |
| 12:00 | 昼食             | 9:00  | みんなで描こう巨大アート |
|       | みんなでつくろう！吉備ずかん | 12:00 | 昼食           |
| 15:00 | 休けい            | 12:45 | お楽しみ         |
| 15:45 | KIBI's キッチン    | 13:20 | ふりかえり        |
| 18:45 | ずかんしょうかいタイム    | 14:00 | 閉会式          |
| 19:30 | ふりかえり          |       |              |
| 20:00 | 入浴・就寝準備        |       |              |
| 21:00 | 就寝             |       |              |

#### (2) 活動の状況



【開会式】



【仲間づくりのゲーム】



【目標づくり】



【みんなでつくろう！吉備ずかん①】



【みんなでつくろう！吉備ずかん②】



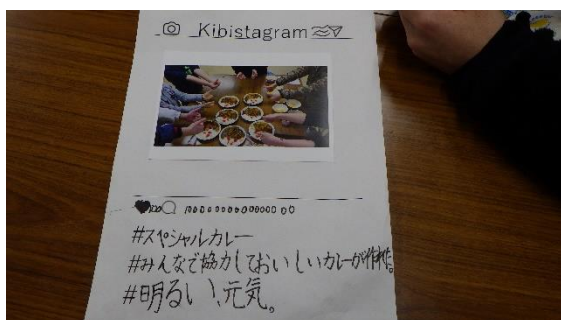
【みんなでつくろう！吉備ずかん③】



【KIBI'sキッチン①】



【KIBI'sキッチン②】



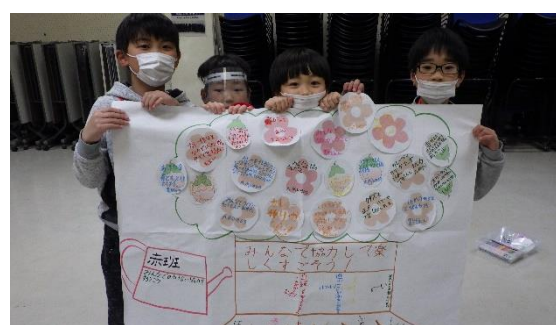
【KIBI'sキッチン③】



【みんなで描こう巨大アート①】



【みんなで描こう巨大アート②】



【振り返り】



【閉会式】



【巨大アート所内掲示】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：100%

##### (2) 参加者の声

###### ① 児童

ア. 楽しく自然を勉強できる機会になった。

イ. 目標を自分達で立てて、それを達成できたからよかった。

ウ. 楽しかった！みんなで協力できた。新しい友達ができた。

###### ② 法人ボランティア

ア. 自然と触れ合うことが大切だと子供たちに自覚させ、活動を通して、協同性を育み、実生活でも実践できるようサポートできた。

イ. 初めて参加、継続、いろいろなボランティアが参加していて、思いの込められたキャンプを企画ができてよかった。

ウ. 先輩方に今回参加していただいて、背中を見ながら成長できたと思う。

##### (3) 成果

① ボラコーと連絡を細かくとったり、事業当日までに2回の事前研修をしたりしたことで、法人ボランティアはしっかりと計画を練ることができ、事業当日もゆとりをもって実施することができた。また、ボラコーの助言や指導によって、法人ボランティアは自信をもって事業を運営することができた。

② 安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボラコーで共有したことで、参加者に安心・安全に活動できる事業を提供できた。

③ 法人ボランティアから発想豊かなアイデアが生まれたので、これからの事業企画の参考にしていきたい。

④ 異なる学年の法人ボランティアが参加し、経験してきたことを伝え合ったり、役割分担をバランスよくしたりしたことで、組織としての力量が高まった。また、今後のボランティア活動への意識の高まりが見られた。

##### (4) 今後の課題

① 参加者募集の広報として、チラシの配布に取り組んだが、参加者の応募が伸びなかったのも、地元のケーブルテレビに協力してもらって取材を受けて番組で流してもらった。それでも参加者の応募が定員ぎりぎりだったので、チラシの拡散範囲や新聞の利用などの広報の仕方を検討していく。

② 開催時期として新型コロナウイルス感染症の拡大に重ねてインフルエンザの流行も心配された。ただし、準備期間を考えると秋は大学生にとっては実習期間と重なるなどの課題も見られる。開催時期については、法人ボランティアと早い段階で検討していく必要がある。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克